

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
106-250	高 等 学 校	国 語	言 語 文 化	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※ 教 科 書 名		
143 筑摩	言文 143 - 901	ちくま言語文化		

1. 編修の基本方針

● 教科書の理念

この教科書は、「教育基本法」「学校教育法」の規定や理念を踏まえ、特に以下の点に留意して編修しました。

- ①豊かな人間性・創造性を身につけさせる。
- ②平和で民主的な国家及び社会の形成者たる人物を育成する。
- ③社会において果たさなければならない使命を自覚させる。
- ④それぞれの個性に応じた進路を決定するのに必要な幅広い知識と教養を高める。
- ⑤社会について、広く深い理解と健全な批判力を養い、社会の発展に寄与する態度を育む。
- ⑥主体的に考え、周囲との対話を行うことを通じて、深い学びへと導く。

● 教材の選定と配列

教育基本法第2条の1～5号に示された教育の目標を達成するために必要な教材を精選して掲載しました。教材の選定と配列にあたっては、次のような点に意を用いました。

- ①豊かな感性や情緒をはぐくみ、伝統的な言語文化に対して主体的に関わりをもつことができるように、古文・漢文および近代以降の文学的な作品から広く教材を選定しました。
- ②語彙を増やし、適切にことばや文章を用いて表現することのできる力を養い、文学的な表現を用いて創造力を豊かにすることのできる教材を選定しました。
- ③さまざまな形式の文章や作品に触れることで深い知識と教養を身につけ、生涯にわたって主体的・対話的で深い学びへと導かれる教材を選定しました。
- ④教材がたがいに有機的に繋がり、学習が進むにつれ、国語の資質および能力が的確に身についていくことを意識して教材を配列しました。
- ⑤「思考力・判断力・表現力」の2領域のうち、「書くこと」については2単元、「読むこと」については13単元と、単元をバランス良く配置し、効果的に言語能力を高めることができるよう配列しました。

● 学習を支える工夫

各単元および教材を通じて、高校生の知識・技能を高め、主体的・対話的で深い学びへと導くために、次のような点に意を払いました。

- ①単元の目標：単元の冒頭に、それぞれの単元を通じて身につけたい資質・能力を端的に示しました。また、「書くこと」「読むこと」の2領域の、どの領域をのぼす単元であるかを明示しました。
- ②視点：教材の冒頭に、身につけたい資質・能力について、教材の着目すべき点を掲げました。
- ③学習：教材の末尾に「理解」「表現」を設け、資質・能力を身につけるにあたって、教材のどのような点を活用することができるかを明示しました。
- ④実践：単元の末尾に、言語能力を高め、主体的・対話的で深い学びへと導く具体的な活動を示しました。
- ⑤コラム・付録：「古典文法の窓」「読解の窓」等のコラムおよび付録を設け、日本の言語文化や教材本文への理解をより深めることができました。
- ⑥デジタル・コンテンツ：学習に役立つデジタル・コンテンツを適宜用意いたしました。

2. 対照表

図書の構成・内容と教育基本法第二条第一号から第五号との対応を下記に示します。

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
言葉の力（大岡信）	古典から現代に至るまで幅広く文学作品に学ぶことを薦める本文を読むことで、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うこと、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことを考えるきっかけとなることを期しました。（1号、5号）	p11 ～ 16
1) 古文への扉 ——古文入門 ・古文を学ぶために・児のそら寝・大納言頭雅卿・絵仏師良秀・大江山	基礎的な古文知識を身につけることで、古文を学ぶ導入とし、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うようにしました。（5号）	p17 ～ 34
2) 人間の普遍的な姿 ——物語を読む ・竹取物語（かぐや姫誕生／かぐや姫の昇天） ・伊勢物語（芥川／東下り／筒井筒【参考】沖つ白浪（大和物語）／梓弓）	物語に描かれた人間の普遍的な姿を読み取ることで、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うようにしました。（1号）	p35 ～ 56
3) 自分という他者 ——日記を読む ・土佐日記（門出／亡き児をしのぶ／帰京） ・更級日記（東路の道の果て／をかしげなる猫）	日記文学を通して、書かれた姿と書き手の視点を対象化する読み方を学ぶことで、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うことができるようにしました。（2号）	p57 ～ 70
4) ことばに表れる意思 ——随想を読む（古文） ・枕草子（春は、あけぼの／ありがたきもの／雪のいと高う降りたるを／【参考】香爐峰下、新ト山居、草堂初成、偶題東壁） ・徒然草（つれづれなるままに／丹波に出雲といふ所あり／ある人、弓射ることを習ふに／名を聞くより、やがて面影は／花は盛りに【参考】兼好法師が詞のあげつらひ（玉勝間）） ・方丈記（ゆく河の流れ／【参考】川上之嘆（論語）／仮の庵）	古文作品における随想を読むことで、正義と責任、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことができるようにしました。（3号）	p71 ～ 92

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
5) 転換期の文体と行動 ——軍記を読む ・平家物語（木曾の最期） ・転換期の文学（兵藤裕己）	軍記を通して、漢文を日本語の中に取り込んでいく転換期のことばの変化や、独特の文体で描き出された登場人物の行動を読み解き、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことができました。（5号）	p93 ～ 110
6) 韻文の表現（一） ——和歌・俳諧を鑑賞する ・和歌（万葉集／古今和歌集／新古今和歌集） ・奥の細道（序／白河の関／立石寺）	和歌や俳諧に読み込まれた人々の心情や我が国の自然の捉え方を学ぶことで、生命を尊び、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養い、また、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うことができました。（4号）	p111 ～ 130
7) 練り上げられた思考 ——評論を読む ・正徹物語（待つ恋） ・玉勝間（いにしへよりも後世のまされること）	古文作品における論理的な文章を読むことで、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うことができました。（1号）	p131 ～ 138
8) 漢文への扉 ——漢文入門 ・漢文を学ぶために ・憲法十七条（日本書紀）	漢文訓読という手法によって、漢文を我がものとしていった先人達の工夫を学ぶことで、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うようになりました。（5号）	p139 ～ 156
9) 漢語の特色 ——故事成語を読む ・故事成語（守株／推敲／借虎威／漁父之利／塞翁馬）	人口に膾炙した故事成語を学ぶことで、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うことができました。（1号）	p157 ～ 166
10) 言動に表れる人間の本質 ——史伝を読む ・管鮑之交／刺客荊軻／死諸葛走生仲達（十八史略） ・那須宗高（日本外史） 【参考】那須与一（平家物語）	史伝を通じて、正義と責任、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことができました。（3号）	p167 ～ 180
11) 韻文の表現（二） ——唐詩を翻案する 登鶴鵲楼／鹿柴／秋風引／江雪／涼州詞／望廬山瀑布／江南春／過故人莊／送僧帰日本／江村／八月十五日夜、禁中独直、対月憶元九	豊かな自然を歌った唐詩を通じて、生命を尊び、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養うとともに、唐詩を通じてあらたな文学を生み出した先人達の創造力に学び、我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことができました。（4号、5号）	p181 ～ 192
12) 読みつがれることば ——中国古典思想を読む ・論語〈孔子の説く「知」と「政」〉 ・老子〈老子の説く「知」と「政」〉 ・孔子問礼（史記・老子韓非子列伝） ・雑説（唐栄八家読本）	中国古典思想を読み解くことを通して、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、正義と責任、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことができました。（1号、3号）	p193 ～ 206

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
13) 日本語の変遷 ——近代語の成立を知る ・近代語の成立 ・近代文学の文体 ・余が言文一致の由来（二葉亭四迷） ・若葉かげ（樋口一葉） ・深山の灯影（島崎藤村）	近代の日本が、どのように言文一致を成し遂げたかを学ぶことで、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うようにしました。（5号）	p207 ～ 228
14) 韻文の表現（三） ——詩歌を作る ・小諸なる古城のほとり（島崎藤村）・落葉（ポール・ヴェルレーヌ／上田敏訳）・竹（萩原朔太郎）・樹下の二人（高村光太郎）・乳母車（三好達治）・二十億光年の孤独（谷川俊太郎）・崖（石垣りん） ・短歌／俳句 ・美の世界（佐藤春夫）	近現代詩歌を通して豊かな言語表現を学び、自らも詩歌を創作することで表現力を磨くとともに、相互評価を行って、個人の価値を尊重し、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うことができるようにしました。（2号）	p229 ～ 254
15) 散文の可能性 ——小説・随想を読む ・檸檬（梶井基次郎） ・物語る声を求めて（津島佑子）	「檸檬」では青春の鬱屈を描いた小説の豊かな言語表現を学び、「物語る声を求めて」では口承文学について述べた随想の卓越した表現力を学ぶことで、文学的文章の表現手法について幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うことができるようにしました。（1号）	p255 ～ 268

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時間数表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
106-250	高 等 学 校	国 語	言 語 文 化	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※ 教 科 書 名		
143 筑摩	言文 143-901	ちくま 言語文化		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

学習指導要領の総則および「言語文化」に掲げられた目標を効果的に達成するために、特に以下の点に留意して編集しました。

①育成したい資質・能力を明確化した単元構成 単元は、生徒に身につけさせたい「知識・技能」および「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力、人間性」をもとに構成しました。

「思考力・判断力・表現力」については、「書くこと」「読むこと」の、どの領域に関する言語能力を身につけたいかを分かりやすく示しました。

また単元ごとに「単元の目標」を示し、生徒が各単元を通じて、どのような資質・能力を身につけることができるのか、見通しを立てたり、学習後の振り返りを行ったりすることができるようにしました。掲載した教材にはそれぞれ冒頭に「視点」を示し、各教材を通じて身につけたい「知識・技能」および「思考力・判断力・表現力」を意識的に学習できるようにしました。

②発達段階に応じた教材を厳選 生徒の心身の発達段階を十分に考慮して、高校教育の基礎を固め、さらに後続する「文学国語」「古典探究」への移行が円滑にできるよう、親しみやすい教材から、深い味わいを覚える教材まで厳選して掲載しました。また、教材として適度な長さで、なおかつ奥行きのある文章を選びすぐりました。古文・漢文については、基礎的な学力を育み、その上に発展的な学習を積み上げられるよう、各時代から代表的な教材を選んで編集しました。

③「主体的・対話的で深い学び」の実現を促す「実践」 全ての単元の末尾に「実践」を示し、単元を通して、「主体的・対話的で深い学び」を行うことができるようにしました。

④学習者の自学自習に便利な工夫 教材の理解を助けるために、脚問を付して、本文を的確に理解できるようにしました。また教材末尾には「理解」と「表現」を設け、教材の内容を正確に捉えることができるようにしました。各見開きに重要古語や重要漢字・語句を、現代文では教材末尾に「重要漢字」を付し、生徒の語彙を増やすことができるように工夫しました。

また古典文法や漢文訓読のまとめが適切にできるように、それぞれ「古典文法の窓」や漢文の読解に役立つコラムを設けました。

⑤読書指導の充実 「学びに向かう力、人間性」を支える工夫として、読書の意義を理解できるように「読書案内」を設け、教材によっては著者の主な著作を紹介しました。

⑥誌面の工夫 全体に見やすいレイアウトとなるよう配慮するとともに、学習の効率化と活性化を図るために多

色刷りを用い、必要な図版や地図などを適宜カラーで掲載しました。また、多くの生徒の読みやすさに配慮して、ユニバーサル・デザイン・フォントを用いました。

⑦デジタル・コンテンツ 学習を深める手立ての一つとして、教材に関するインターネット上の情報を適宜示し、二次元コードを用いて、情報を示したウェブページを掲載しました。

2. 対照表

図書の構成・内容			学習指導要領の内容		該当箇所	配当時間数
単元名	教材名	実践	知識・技能	思考力・判断力・表現力		
	言葉の力（大岡信）		(1) ア, エ (2) イ, ウ, エ, カ	B ア	p11 ～ 16	2
1) 古文への扉 ——古文入門	・ 古文を学ぶために ・ 児のそら寝（宇治拾遺物語） ●古典文法の窓1 歴史的仮名遣い ・ 大納言顕雅卿（十訓抄） ●古典文法の窓2 品詞の分類 ・ 絵仏師良秀（宇治拾遺物語） ・ 大江山（十訓抄） ●古典文法の窓3 用言の活用／音便	「構成」を意識して作品への理解を深めよう	(1) ア, エ (2) イ, ウ, エ	B ア	p17 ～ 34	3
2) 人間の普遍的な姿 ——物語を読む	・ 竹取物語（かぐや姫誕生／かぐや姫の昇天） ・ 伊勢物語（芥川／東下り／筒井筒【参考】沖つ白浪（大和物語）／梓弓） ●古典文法の窓4 係り結びの法則／「ば」の用法	当時の文化に注目しよう	(1) ア, エ (2) イ, ウ, エ	B ア, ウ, エ	p35 ～ 56	4
3) 自分という他者 ——日記を読む	・ 土佐日記（門出／亡き児をしのぶ／帰京） ・ 更級日記（東路の道の果て／をかしげなる猫） ●古典文法の窓5 助動詞	一人称で語ってみよう	(1) ア, エ (2) イ, ウ, エ	B イ, エ	p57 ～ 70	4

図書の構成・内容			学習指導要領の内容		該当箇所	配当時間数
単元名	教材名	実践	知識・技能	思考力・判断力・表現力		
4) ことばに表れる意思——随想を読む	・枕草子（春は、あけぼの／ありがたきもの／雪のいと高う降りたるを／【参考】香爐峰下新ト山居草堂初成偶題東壁・徒然草（つれづれなるままに／丹波に出雲といふ所あり／ある人、弓射ることを習ふに／名を聞くより、やがて面影は／花は盛りに【参考】兼好法師が詞のあげつらひ（玉勝間）） ・方丈記（ゆく河の流れ【参考】川上之嘆（論語）／仮の庵） ●古典文法の窓6 助詞	作者のものの見方を批評してみよう	(1) ア, エ (2) ア, イ, ウ, エ	Bイ, エ	p71 ～ 92	4
5) 転換期の文体と行動——軍記を読む	・平家物語（木曾の最期） ●古典文法の窓7 敬語法 ・転換期の文学（兵藤裕己） ●和漢混交文と漢字仮名交じり文	体験を通して古典文化の理解を深めよう	(1) ア, エ (2) イ, ウ, エ, オ	Bウ, エ	p93 ～ 110	4
6) 韻文の表現（一）——和歌・俳諧を鑑賞する	・和歌（万葉集／古今和歌集／新古今和歌集） ・奥の細道（序／白河の関／立石寺） ●古典文法の窓8 和歌・俳諧の修辞	韻文を鑑賞する力を磨こう	(1) ア, ウ, エ, オ (2) イ, ウ, エ	Bウ, エ	p111 ～ 130	3
7) 練り上げられた思考——評論を読む	・正徹物語（待つ恋） ・玉勝間（いにしへよりも後世のまされること） ●古典文法の窓9 まぎらわしい語の区別 ●読書案内	古文の魅力を小論文にまとめてみよう	(1) ア, エ, オ (2) イ, ウ, エ	Bオ	P131 ～ 138	3

図書の構成・内容			学習指導要領の内容		該当箇所	配当時間数
単元名	教材名	実践	知識・技能	思考力・判断力・表現力		
8) 漢文への扉 ——漢文入門	・ 漢文を学ぶために ●主な助字(置き字)・返読文字・再読文字 ●送り仮名のきまり ・ 憲法十七条(日本書紀)	「書き下し」という手法で、ことばの構造を考えよう	(1) ア, エ (2) ア, イ, ウ, エ, カ	Bア	p139 ~ 156	4
9) 漢語の特色 ——故事成語を読む	・ 故事成語(守株／推敲／借虎威／漁父之利／塞翁馬)	ことばが創られる過程に触れよう	(1) ア, ウ, エ (2) ア, イ, ウ, エ	Bウ	p157 ~ 166	5
10) 言動に表れる人間の本質 ——史伝を読む	・ 管鮑之交／刺客荊軻／死諸葛走生仲達(十八史略) ・ 那須宗高(日本外史) 【参考】那須与一(平家物語)	記録から人物像を具体的に把握しよう	(1) ア, エ (2) ア, イ, ウ, エ	Bイ, エ, オ	p167 ~ 180	5
11) 韻文の表現(二) ——唐詩を翻案する	登鸛鵲樓／鹿柴／秋風引／江雪／涼州詞／望廬山瀑布／江南春 ●漢詩の決まり① 過故人莊／送僧帰日本／江村／八月十五日夜、禁中独直、対月憶元九 ●漢詩の決まり②	翻案を通じて、自分の思いを伝えよう	(1) ア, ウ, エ, オ (2) ア, イ, ウ, エ	Aア, イ	p181 ~ 192	4
12) 読みつがれることば ——中国古典思想を読む	・ 論語〈孔子の説く「知」と「政」〉 ・ 老子〈老子の説く「知」と「政」〉 ・ 孔子問礼(史記・老子韓非子列伝) ・ 雑説(唐荂八家読本)	表現の特徴を読み取ろう	(1) ア, エ (2) ア, イ, ウ, エ	Bエ, オ	p193 ~ 206	4

図書の構成・内容			学習指導要領の内容		該当箇所	配当時間数
単元名	教材名	実践	知識・技能	思考力・判断力・表現力		
13) 日本語の変遷 ——近代語の成立を知る	・近代語の成立 ・近代文学の文体 ・余が言文一致の由来（二葉亭四迷） ・若葉かげ（樋口一葉） ・深山の灯影（島崎藤村）	「話しことば」と「書きことば」の違いを意識してみよう	(1) ア, エ (2) エ, オ	B イ, エ	p207 ～ 228	8
14) 韻文の表現(三) ——詩歌を作る	・小諸なる古城のほとり（島崎藤村）・落葉（ポール・ヴェルレーヌ／上田敏訳）・竹（萩原朔太郎）・樹下の二人（高村光太郎）・乳母車（三好達治）・二十億光年の孤独（谷川俊太郎）・崖（石垣りん） ・短歌／俳句 ・美の世界（佐藤春夫）	詩歌を通して、表現力を磨こう	(1) ア, イ, ウ, エ (2) カ	A ア, イ	p229 ～ 254	3
15) 散文の可能性 ——小説・随想を読む	・檸檬（梶井基次郎） ・物語る声を求めて（津島佑子）		(1) ア, ウ, エ (2) イ, カ	B ア, イ, ウ, エ, オ	p255 ～ 268	10

合計 70